株式会社セイバン

平成30年度ひょうごオンリーワン企業 認定企業

株式会社セイバン

代表取締役社長 泉 貴章 氏

磨き続けたものづくり技術が起こしたランドセル革命 子どもたちへの想いが生んだ「天使のはね」

PROFILE

1974年たつの市出身。大学院ではバイオテクノロジーの研究に取り組み、卒業後、大手飲料メーカーにて商品開発や工場の品質管理に携わる。2010年株式会社セイバンに入社。2011年より代表取締役社長に就任し、現在に至る。学生時代はバスケットボールで汗を流し、最近はフルマラソンに挑戦するスポーツマン。3時間台での完走を目標に、休日はトレーニングに励んでいる。愛犬のミニチュアダックスと戯れる時間が、束の間の息抜き。

本社外観

―「ひょうごオンリーワン企業」に認定された感想をお聞かせください

栄えある賞をいただき、非常にありがたく、うれしく感じています。2018年の「ひょうご仕事と生活のバランス企業」表彰から吉報が続き、社員みんなのモチベーションも上がっています。弊社が兵庫県の企業であることをご存じない方もいらっしゃいますので、今回の表彰を機に多くの人に知っていただきたいと思います。また、人材採用でも、多くの人に弊社を選んでいただけることを期待しています。

― 御社がランドセル専業メーカーとして、最も大切にしてこられた理念やものづくりに対する姿勢を教えてください

私たちが生産するランドセルは日本固有の文化と呼べるもので、大半の子どもたちが使用しています。弊社は、数あるランドセルメーカーの中でもトップクラスのシェアを誇り、多くのお客様が弊社のランドセルを背に通学されています。2019年10月に創業100周年を迎える弊社は、「子どもは社会全体で育てる」という意識のもと、どうしたら子どもたちが快適に、安全に過ごせるかを常に考え、ランドセルの専業メーカーとして「愛情のものづくり」を基本理念に事業を展開してきました。ランドセルは一生に一度だけの買い物で、小学校6年間という限られた期間の中で使うものです。入学祝いとしてプレゼントされることも多く、両親や祖父母の愛情表現そのものだと考えています。そんな大切な宝物ですので、一本一本丁寧に作り上げた品質の良いものを、お子様一人ひとりにお届けすることが求められています。弊社では糸や素材の開発からこだわり抜き、日本の文化に恥じないものづくりに挑んでいます。

―「セイバンのランドセル」は、軽さでギネスにも登録されました

ランドセルを選ばれる際、軽さを重視されるご家族もいらっしゃいます。ただし、やみくもに軽くするのではなく、6年間使い続けられる丈夫さを確保したうえで、軽く感じる工夫を凝らしています。実は重いと感じているのは、ランドセルより教科書ですので、教科書を入れた状態で軽く感じるものでなくてはいけません。そこで弊社は、「体感重量」をいかに軽くするかを重視した研究開発に取り組んでいます。
その一つが、弊社の代表的な製品である、重量より軽く感じる「天使のはね」です。肩ベルトに内蔵したはねの形の樹脂素材が肩ベルトを立ち上げることで、ランドセル全体がぐっと

子どもたちのために「軽く」「使いやすく」「背負いやすく」を常に考える

持ち上がります。これにより背中の上部にぴったり密着し、肩や背中の負担を軽減するので、実際の重量より軽く感じられるのです。この「天使のはね」は、前専務の泉敏弘が四国の八十八ヶ所巡りをしていた際、重いリュックを背負って歩く自分自身の姿からヒントを得て、ランドセルの肩ベルトを立てることを思い付いたのが研究のスタートでした。このランドセルが世に出た当初は、「ランドセルに革命が起こった」と言われたほど画期的な製品でした。

― 「天使のはね」のランドセルに代表される、オンリーワンとしての「技術」の特長や「強み」を教えてください

軽く感じる工夫を突き詰めた結果、出てきた答えがベルトを立たせる発想と樹脂板の開発でした。素材が硬すぎるとポキンと折れてしまうし、柔らかすぎると、だらんとして立ちません。硬すぎず、柔らかすぎず、縫製もできる硬さと形状を見つけるため、肩ベルトに段ボールや鉄板など様々なものを入れて試すなど、3年かけて試作を重ね、力が加わってもしなって折れない樹脂パーツ「天使のはね」を開発しました。また、背カン（肩ベルトと本体を繋ぐ金具）も角度や形を年々改良し、片方を動かすともう片方も動く左右連動型を採用しています。これは、常に重心を背中のセンターに持ってきて、安定した姿勢をキープすることで、ランドセルを軽く感じさせるための工夫です。
この「天使のはね」のランドセルは、弊社にとっても一つのターニングポイントになった製品でした。当時、ランドセルとはこういうものだと誰もが思い、お客様から改良を要望されたわけではありませんでした。しかし、何か改良できないかという思いからの、我々の小さなアイデアでしかなかったことが、最終的にお客様の期待を超えるアウトプットに繋がったのです。顕在化してないニーズを商品化できたことは、弊社にとって非常に大きな体験でした。子どもたちのために「軽く」「使いやすく」「背負いやすく」を常に考えていたからこそ、アイデアに繋がったのだと思っています。
一方、製造現場では、現在、若い社員がベテラン社員から技術習得の教育を受けています。ランドセルは機械ではなく人の手で作られるため、職人的な技術やスキルが求められるのです。入社してすぐにできるものではありませんので、計画的な指導のもと新しい知識と経験をプラスしながら、よりいっそうの発展を目指し取り組んでいます。

― 「平成30年度 ひょうご仕事と生活のバランス起業表彰」を受けられた「製造」についてお聞かせください

3年前から工場を挙げて「多能工化」を推進しています。ランドセルの製造は、一つひとつの作業が特殊なうえ工程数が多く、ある一カ所で製造が遅れると、その遅れが全体に広がってしまいます。今までは、各工程を担当できるのは一人ずつしかいなかったため、一つの工程がトラブルで遅れると全体の生産が止まってしまっていたのです。そこで全工程を12のゾーンにまとめ、作業者はゾーン内すべての工程に携われるよう学習し、仕掛品が2つたまった時点でその作業者は手を止め、他の人の応援に入ることをルール化しました。
また、こうした作業工程だけでなく、残業が当たり前という環境を改善し、いかに少ない人数で時間をかけずに成果を出すかに挑戦したり、価値を生む行動を考えて取り組んだりした結果、熟練技術者からの技術伝承に使える時間が生み出せるようになりました。これまで多能工への技術伝承が進んでいなかったため、体制づくりには時間がかかりましたが仕組みが形になってきています。すると、以前の単能工時代に比べスキルをもっと向上させたいという社員が多くなり、職場に活気が出てきました。この職場の活気が「愛情のものづくり」に確実に伝わっていると自負しています。

― 最新の情報やお客様のニーズを獲得するため、どのような取り組みを行っていますか？

お客さまの声を直接聴き取り、より深くものづくりに活かしたいと考え、全国6店舗の直営店を運営しています（平成31年3月26日現在）。直営店にはランドセルコンシェルジュ（＊）が常駐し、ランドセル選びのポイントやトレンドなどを説明しながら、お客さまの声をヒアリングしています。近年、ランドセルは多様化が進み、様々なメーカーやプライベート

価値を生む行動を考えて取り組み、技術伝承に使える時間を生み出した

自分たちの強みや特長をしっかり認識し、ぶれることなく成長していける会社へ

ブランドなどが展開している中、どこが違うのか、何がいいのかがわからず、ランドセル選びに悩んでいるという声をたくさんいただきました。そこで「私たちはランドセルを説明できる会社になろう」と始まったのがコンシェルジュでした。ランドセルとはこういうものなんだ、こうして選ぶんだと理解したうえで買っていただくための接客サービスをしようと進めています。今後もさまざまな地域のお客さまの声を聴くため、積極的に直営店をオープンしていく予定です。

＊ランドセルコンシェルジュ：ランドセルのスペシャリスト。ランドセルの知識を確認する筆記試験、接客ロールプレイング、面接に合格したスタッフだけがこの称号を獲得することができます。セイバンのランドセルのことだけでなく、業界全体のトレンド情報、人工皮革から本革に至る素材について、製造方法、歴史といった、ランドセルについての幅広い知識を備えています。

― 今後の展開をお聞かせください

少子化により小学校へ入学する児童数は年々減少し、国内ランドセル事業の中長期的な衰退は避けて通ることはできません。そのため、アジアを中心に、ヨーロッパやロシアといった海外にも、販路を拡げていきたいと考えています。その際に大切なことは、日本の文化をそのまま海外に持っていくより、ランドセルの本質は変えずに現地の文化に合わせ、ローカライズした形で進出することだと思っています。子どもへの愛情は、国によって違いは無いはずです。いかに愛情を具現化したものづくりができるかだと思っています。
一方、子供服メーカーと共に保育事業をスタートさせる計画も進行中で、ランドセル以外の事業にもチャレンジしていく予定です。

― 「オンリーワン企業」をめざす企業へメッセージをお願いします。

会社には、必ずそれぞれの強みがあります。その自分たちの強みや特長を、まずはしっかり認識し、いかにぶれることなく伸ばしていけるかが、会社として成長していくために重要ではないかと思います。他社との違いをアピールできるかできないかが、大きく関わってくるところでもありますから、強みや特長をしっかりと意識することで、間違いなくオンリーワンになれると思うのです。弊社も、この栄えある賞に恥じないよう、さらなる"オンリーワン"を目指して邁進してまいります。

ランドセルのスペシャリスト「ランドセルコンシェルジュ」

TECHNOLOGY

ランドセルの新たなスタンダードを構築！

子どもたちのからだと心に寄り添うランドセル「天使のはね」

樹脂板の形状から「天使のはね」と名付けられたランドセル

1919年の創業から培ってきたものづくり技術をベースに、ランドセルの製造を続けて73年。子どもたちへの愛情をランドセルに込め、丁寧なものづくりに取組んできた株式会社セイバン。軽さと背負いやすさへの挑戦が続く中、「より安定感とフィット感を高め、子どもたちのからだに負担のかからないランドセルを作りたい」との思いからひらめいたのが、「肩ベルトを立たせ、体感重量を軽くする」という発想でした。そこで職人たちが考案したのは、肩ベルトと背カン（肩ベルトと本体を繋ぐ金具）の間に、プラスチック製の部品を挿入すること。その後、3年がかりで樹脂素材の板を開発しました。肩ベルトに内蔵した板が肩ベルトを立ち上げるため、ランドセル全体がグッと持ち上がり、背中の上部にぴったり密着。肩や背中の負担を軽減する仕組みです。その樹脂板の形状から「天使のはね」と名付けられたランドセルは、背負いやすさが評判となりまたたく間にヒット商品に。発売の翌年には大ブレイクを果たしました。

その後「天使のはね」は少しずつ着実に進化を遂げ、機能性や耐久性だけでなくデザインや上質感も充実。製品のラインナップも多彩に拡大すると同時に、数年に一度リニューアルを実施。子ども想いのランドセルとして愛され続けています。

開発に至った経緯

株式会社セイバン前専務の泉敏弘氏が、四国の八十八ヶ所巡りをしていた2000年頃、重いリュックを背負って歩く自分自身の姿からヒントを得て、ランドセルの肩ベルトを立てることを思い付きました。立ち上がらせるため、肩ベルトに段ボールや鉄板を入れるなど試行錯誤を重ね、力が加わってもしなって折れない樹脂パーツ「天使のはね」を開発。折れない丈夫さ、肩にかけやすい柔らかさ、さらに縫製ミシンが通る硬さといういくつもの課題をクリアし、3年の月日を費やして誕生させました。

独自性

株式会社セイバンのランドセルには、「子ども想い基本機能」が数多く搭載されています。その一つが「タフかるプレート」。独自開発した芯材で、圧力がかかってもつぶれにくい強度と軽さが特長です。この「タフかるプレート」をベースに芯材を二重構造にして使用することで、壁にもたれても型崩れしにくい耐久性を維持しています。もう一つは、教科書の動きを安定させる「チルトプレート」。傾斜のついた底敷きが、常に教科書が背中側に倒れるようサポートすることで重心が安定し、背負ったランドセルを軽く感じさせます。こうした多くのこだわりの機能で、子どもたちの小学校での6年間を支えているのです。

今後の展開

新たな機能を加えるなど、改良を重ねる「天使のはね」ですが、少子化により小学校へ入学する児童数は年々減少しており、国内ランドセル市場の縮小は避けて通ることはできません。そのため株式会社セイバンでは、海外での販路拡大に向け販売戦略の構築が進んでいます。また、次代を託す子どもたちを守り、幸せにしたいという想いをランドセル以外でも形にするため、株式会社ファミリアとの共同経営で保育事業にもチャレンジしていきます。

変わらない「愛情のものづくり」2019年セイバンは創業100周年

たつの市出身の泉亀吉が、カバンや財布、キセルなどを製造する会社を設立したのは1919年。株式会社セイバンは2019年に創業100周年を迎えます。戦後の混乱期を経て、ランドセルの普及とともに本格的に生産を開始。背負いやすさへの挑戦、軽さの追求、顧客ニーズに応じた生産コンセプトの確立を通じ、デザインも機能もますます充実した製品を、子どもたちに届けています。今後も、主要都市部への出店やランドセル以外の事業展開など「子どもは社会全体で育てる」という視野からの発想を大切に、チャレンジを続けていきます。

お客様の声をものづくりに深く活かすため主要都市部へ出店

選ばれる理由は「軽く背負えて、6年丈夫。」2017年マザーズセレクション大賞を受賞

2017年「天使のはねランドセル」は『第9回マザーズセレクション大賞 』(特定非営利活動法人 日本マザーズ協会主催)を受賞しました。この賞は、子育てをしている母親たちが「自分で使ってみて他の母親たちにも推薦したい」と感じた商品やサービス、施設に投票し、その投票最多の商品を選定、表彰するものです。つまり、子育て中の母親たちの信頼や共感・好感の証です。今後も顧客ニーズにしっかりと寄り添いながら、株式会社セイバンは、子どもたちとその家族の笑顔に貢献していきます。

2017年マザーズセレクション大賞受賞

沿革

1919年　大阪に泉亀吉商店を創立

1946年　西播鞄嚢製作所を設立

1973年　(株)西播を設立

1982年　販売子会社スリーアイコーポレーション(株)を設立

1986年　(株)セイバンに改組

2003年　「天使のはね」販売開始

2016年　スリーアイコーポレーション株式会社と株式会社松野が経営統合し、セイバンマーケティング株式会社を設立

2018年　子ども服のファミリアとランドセルのセイバンが保育事業で新会社を設立

会社概要

所在地　〒671-1631
たつの市揖保川町山津屋140-14

電話　0791-72-3000

FAX　0791-72-7171

URL　https://www.seiban.co.jp/

従業員数　278人(単体)　323人(グループ計)

資本金　4,500万円

設立　1919年

代表取締役社長　泉 貴章

事業概要

ランドセル、関連グッズ製造・販売